

第3学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「本は友だち」 教材名「本で知ったことをクイズにしよう / 鳥になったきょうりゅうの話」

2 単元の目標

幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。（〔知識及び技能〕(3)オ）

文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。（C(1)力）

本で確かめた知識を相手に伝え、読書から得た気づきの違いを共有する学習の中で、言葉への関心を持ち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。（〔知識及び技能〕(3)オ）	①「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。（C(1)力）	①本で確かめた知識を相手に伝え、読書から得た気づきの違いを共有する学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

本で確かめた知識を相手に伝え、読書から得た気づきの違いを共有する。この教材では、自作クイズと根拠となる本の記録を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

答えが本で確かめられる範囲の問いにする。図や本文は複製せず、自分の言葉で問題と説明を書く。想定する難しさは、難しい問題を作ることだけを目指し、本の根拠を示さない。評価では、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いているかを、自作クイズと根拠となる本の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全5時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。単元の終わりに残す記録を確認、学習の見通しをもつ。	学習状況を見て支援する。
第2次	2	○教材や選んだ科学読み物を読み、知ったことと出典を記す。必要な語や材料を集め、関係を整理する。	知①（言葉・文字・資料の扱いを確認める活動）
第3次	3～4 （本時）	○教材や選んだ科学読み物を読み、知ったことと出典を記す。本文から答えを確認められる自作クイズを作り、答え合わせの際に驚いた点や新しく知った点を伝え合う。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第4次	5	○選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確認めて聞く。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導 (3/5)

(1) 本時の目標

文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(C(1)力)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	教材と学習に使う言葉を確認め、問いについて今の考えを話す。 ○「答えの根拠は、本のどの説明にありますか」 【めあて】本で確かめた知識を相手に伝え、読書から得た気づきの違いを共有する。 〈予想される児童の反応〉 ・正解だけでなく理由も読むと分かった。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「答えの根拠は、本のどの説明にありますか」 教材や選んだ科学読み物を読み、知ったことと出典を記す。本文から答えを確かめられる自作クイズを作り、答え合わせの際に驚いた点や新しく知った点を伝え合う。 選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。 〈予想される児童の反応〉 ・正解だけでなく理由も読むと分かった。 ・友達とは別の説明に注目していた。	答えが本で確かめられる範囲の問いにする。図や本文は複製せず、自分の言葉で問題と説明を書く。 想定する難しさ：難しい問題を作ることだけを目標にし、本の根拠を示さない。 評価では、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いているかを、自作クイズと根拠となる本の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 自作クイズと根拠となる本の記録を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・友達とは別の説明に注目していた。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「答えの根拠は、本のどの説明にありますか」。中央は、自作クイズと根拠となる本の記録に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

